

第5回新宿区文化芸術振興会議（第7期）要旨

■開催日時 令和6年3月29日 午後1時30分から午後3時30分まで

■開催場所 新宿区産業会館 研修室 A

■出席者

委員 高階秀爾 垣内恵美子 藤岡紗絵 堀家睦子 梅本武文

工藤真実 大和滋 岡室美奈子 飯田直子（欠席 星山晋也）

*敬称略、文化芸術振興基本条例に規定する分野別の順(会長・副会長を除く)

事務局 鯨井文化観光産業部長 村上文化観光課長 原文化観光係長 内藤主事

■議事の進行

1 開会

- (1) 高階会長が文化芸術振興会議の開会を宣言し、開会した。
- (2) 本日の進行について、次第に沿って進行することを確認した。

2 議事（要旨）

- (1) 新宿区文化芸術振興会議の内容確認について

資料1に基づき、前回会議（令和5年12月20日開催）の内容の確認を行い、資料のとおり承認を受けた。

- (2) 調査審議事項

第7期調査審議事項について、資料2、資料3等に基づき説明を行った。

- (3) 意見交換

- (4) その他

【以下意見交換】

- ・SFMに実際行き、本当に幅広い、音楽、美術、演劇、伝統芸能、パフォーマンスとか、あと、まち歩き、自然や歴史とかこんなに幅広いことがある新宿区は大した区だなと改めて思い、新宿に住んでいるがあまり知らなかった、自分の興味のあることしか知らなくて本当にもったいないことをしてきたなと思うぐらい再発見があった。
- ・それを、新宿区の人とかだけではなく、インバウンドの人も相当来られているので、もう世界レベルで発信していく時期ではないかなと。宝をもっともっとアピールできればいいと思う。
- ・情報発信を効果的に行うというのが一番のポイントではないかと思う。
- ・新宿に来られた人を、次また、来年もその次もという方向性でやっていく。リピーターで来られた方にインフルエンサーみたいになってもらい、それがずんずん大きくなっていくみたいなのは、やはり大事と思った。
- ・例として、瀬戸内国際芸術祭は、最初はアートを見るだけみたいなのだったが、まちぐるみ、島ぐる

みで人とのふれあいとか、そういうコミュニケーション等をやるうちに、毎回来られている外国の方とかも相当いる。草間彌生さんはすごく人気があり、新宿区の方なので、そういうのもうまく取り入れて何かできればいいかなんてことも考えた。

- ・SFMは、6ビレッジに分かれてやっていて、分かりやすいかなとも思うが、何をどこでやるとかということよりも、ジャンル別で音楽、美術、芸術、伝統芸能、パフォーマンス、あと自然や歴史探訪みたいな感じで分けてやるのもいいのかなと。加えて、例えばうまく回るための行程図みたいなのも載せると行きやすいかなと思った。

- ・新宿区は外国人の割合が高く大体13%位で、新宿多文化共生プラザもあり、外国人と日本人の交流を本当によくやられていると思うが、SFMガイドブックに多文化のアイコンがあるが、該当するのが1か所しかない。外国人の発信力はすごいなと私は毎回感心するので、そういう方々も一緒に、新宿多文化共生プラザやNPOでやられている方、在留留学生とか、外国人のいろいろな団体の方とかも巻き込んで、何か発信してもらいたいなものもやれば、もっと賑わう、本来のダイバーシティにつながるような活動になっていくと思った。

- ・文化芸術をうまく取り込んでいるまちを調べたら、宝塚や尼崎があった。宝塚は宝塚音楽学校があり、音楽に対する意識が高くなるようなまちづくりをしている。尼崎は、近松門左衛門が住んでいたことから「近松のまち」という感じで、浄瑠璃等をやることによって、伝統文化のよさとかをアピールすることによって栄えてきたことが例として浮かんた。

- ・新宿は1個では収まらないというか、あり過ぎるくらい多様な区で、ごちゃごちゃ感というか、そういうのが1つのよさだと思っているので、そういうのを発信していけばいいと思うが、そんなゴチャゴチャをいつもバツとはいかないので、新しく再開発される公開空地の中に、いつでも新宿のそういう、いろいろな幅広いジャンルのものを月替わりみたいな感じで展示するとか、何か月に1回位パフォーマンスが何かできるような場を設けてもらうとか、そういうふうに文化芸術をまちの中に浸透させていくような新宿駅界隈になると、区民としてはこんなに嬉しいことはないと思った。

- ・特に外国の人にいろいろなことを発信すると同時に、その外国の方が発信源になって、いろいろと発信することができる形になっているかは、確かに1つの重要な視点だと思う。

- ・今、子どもの体験格差もすごく社会問題になっているので、子どもに文化体験を、学校や学童などに遊びを豊かにするようなアウトリーチをするとともに、そもそも子どもの文化権や子どもの今の状況を、外国籍の方も多いので、そういう子どもを支援している区内の団体やNPO、子ども食堂などから子どもの状況を聞いたりした。

- ・「みらいチケット」という、地域の大人が、文化が行き届きづらい子どもを支援するという形のチケットを買ってもらい、それを子ども食堂や、外国籍の方の支援を行う「みんなのおうち」等を通して、子どもたちに文化体験を届けるというシステムをつくるという流れの中で、助成金を受けプロジェクトを立ち上げた。

- ・一NPO、一市民団体としてできることは、やはりアウトリーチ的なこととか、届きづらいところに届けること。大人の文化体験、文化参加というのは、自分の好みとか、お金を使うこと自体が選択になり、自分の推し文化とかと言われて、そういったところにアプローチするものだが、子どもは、やはり公共的なアプローチの文化体験が必要なのではないか。

- ・親が忙しかったり、経済的な格差があるので、できるだけ公共の力で格差をなくすようにアプローチ

できたらいい。

- ・SFMに、ディレクションというかプロデューサー、ディレクターというか大きな方向性をつけるようなことが必要ではないかという話が出ていたと思うが、特に提言案には盛り込まれなかったのか。

- ・SHIN-ONSAIにはSNSから来ている人が本当に多くて、実際にプレスリリースもSHIN-ONSAIはされていると思うが、SFM全体につながるプレスリリースはされていないのか。見た感じ、日経やヤフーニュースとかを見る限り、SHIN-ONSAIについてはされているものの、そこから先、SHIN-ONSAIを入口として、SFMに触れていただくのが最も効果的と思う。

- ・せっかくSHIN-ONSAIは結構いろいろなメディアに取り上げてもらったり、いろいろなところから来ているというところなので、それがSFMという全体につながったらいい。

- ・SFMという名称も、コンセプトとしてはすばらしいが、聞いただけでパッとイメージできるというところになかなか至るのが難しい。そこにディレクションというか、上手な見せ方が入ることによって、広がっていく可能性をすごく感じるので、たくさんの多様なことをまとめるのは本当に大変だと思うが、誰かが立つことによって、さらにアピールもしやすくなったりするのかなというところもある。

- ・ICTの活用という提言案については、プロデューサー的な人なり形なりがあると、さらに魅力が伝わりやすいのではないかと思った。

- ・あと、公共的空間、新宿駅の再開発についても、新宿区として、やはりソフトのこういう空間を新宿区全体でつくり上げて、新宿駅の周りを「こういう賑わいをつくっていきたい」というような、すごく分かりやすく提言案だと思う。

- ・子どもについては、子どもにも発信すると同時に発信された子どもが、自覚しないで発信源になる。ほかの人、仲間とかあるいは大人にも。それが芸術、文化という重要なポイントになるという意見は大変参考になると思う。

- ・昨年コロナの制約が解除になり、実演団体としての現状については、主催公演、新宿文化センターに依頼されるような公演は、どの公演もほぼ満席状態。中でも最も顕著なのが、円安も絡んではいるが、外国人の割合で、全体の2割以上いるのではないかと。我々の定期演奏会では、定期会員は日本人が主だが、そのお客さんたちが「外国人、多いね」というくらい。

- ・そこには1つ伏線があり、文化庁がここ10年ぐらい多言語化対応と言っているが、我々は20年以上前の2000年から、当日配るプログラムを全部日英多言語表記にしている。それに対して補助はないが、評価だけはいただいている。

- ・年間8公演、10講演とか会員権を買ってくれるお客様は、毎回コンサートに来場できるわけでもないで、行けなくなった日のチケットは寄附をお願いし、留学生の団体に提供する。大体毎回30~40人ぐらい来場する。

- ・空席の有効活用というのもあるが、彼らが母国に帰った際に発信してくれるというようなことが少しずつ浸透してきたかなというところがある。

- ・ICTの活用に関して言うと、新宿区が自ら発信するのは限度があると思う。やはり、各分野にわたってのインフルエンサーの方に協力いただいて発信するほうが、効率的でもっと国内外に広がっていくのではないかと。そのための人選や、データベースの構築などもあると思うが、発信の方向性をインフルエンサーに向けに変えるということも1つの方向性かなと思っている。

- ・新宿文化センターが今改修で休館している。新宿区内で一番大きな芸術文化施設だと思うが、リニュ

ーアルのコンサートについて、新宿文化センターの館長と打合せをした。この機会なので、オーケストラとしては全部発信してもらって構わないので、配信でも何でも構わないと。こういう機会でないといけない。1公演ではなくて、複数公演やったらというような話をしている。

- ・一方、ハードとソフトの両立があると思うが、もちろんハードがないとソフトは発展的にはならないが、ちらほら聞こえてくるのは、施設の使用料の値上げ。光熱費がすごく高くなっている。我々も施設を借りている身としては非常に厳しいところがある。

- ・ただ、限られた財源の中で運営しなければいけないとしたら、値上げも必要なのだと思う。しかしながら、一般の人の利用も含めて考えた場合に、公益性のある事業、又は弱者、子どもとかに対しては優遇措置みたいなものはあってもいいと思っている。

- ・SFMのガイドブックを見ると、全てが網羅されていて、何か困ったことあるのかなぐらいすばらしいと思うが、その中で、よりよく情報発信がうまく発展していけばいいと思っている。

- ・まずICT活用の部分で、SFMの地域別に掲載されているコンテンツをうまく因数分解しながら、分野別にも見せていく。その手法としてICTを活用していくのがキーポイントだと思っている。

- ・恐らく全部を新宿区という行政機関でやると、限界があると思う。あくまでも新宿区としてやるのは、そういう因数分解をうまく伝えるための枠組みを作っていく部分。その中身のところを一般のお客様に向け魅力を高めていくには、分野別である程度固まりながら、新宿の1つ1つの分野について魅力を高めていく動きを促していくところが、行政活動としては必要なのではないかな。

- ・ディレクションをやるところに頼んでも、多分全部やるというのは無理なので、参画されている各文化団体のところの分野別に分けながら、そのあたりの連携をやる仕組みというのも同時に出されたほうがよいのではないかなと思っている。

- ・審議事項2の、公共空間の活用のところで、公共空間で連携すべきは、やはり企業体ということになると思う。百貨店関係や、この再開発のキーになってくるところもそうだし、魅力あるまちづくりについては、そこに本社部門や店舗を置く企業体は同じ方向を向いている。

- ・実際に審議事項の2を進めるに当たっては、ぜひ主要な企業のところで、全体でやるのではなくて、ある程度協力を得られそうなところに声かけしながら成功事例を積み上げていくところが、重要ではないかなと考えている。

- ・西新宿の高層ビルの公開空地内で壁画を作ろうという動きがある。意外といろいろな企業さんで、特にこれから新築とかされるようなところは考えられているところがあるので、幅広くやるのではなくて、成功事例を積み上げるということで、幾つかのところに集中的に声をかけていくことからがよいのではないかなと考えている。

- ・子どもへの文化活動の支援と外国人の方へのアプローチについて。SOMPO美術館は、新宿区の教育委員会と新宿未来創造財団と三者連携で、新宿区の主に小学校4年生と中学1年生へ対話による学校鑑賞教育の支援をしている。本当に小さいときに一度体験するというのが、大人になってからも非常に大きいと思っている、開始して約12年になる。

- ・美術館に来たことがあるか、毎回職員が聞くようにしているが、大体5名以内。ほとんど親御さん自体が連れていっていない状況だと理解していて、そういった点から、やはり子どもに来ていただく、美術だけではなくて文化に接するのは重要だと思っている。

- ・区の外国人の割合が13%というのは、非常に問題意識を持っている。全ての言語は難しいが、今年

度から英語と中国語と韓国語の3か国語で、対話型を使う前のアートカードを作りながらアプローチするような形で、一部の言葉だけでも、ある程度外国の方も日本人の子どもと同じような形で対応できるというのが大分見えてきている。

- ・恐らく外国人割合の高さは全国トップクラスの新宿区なので、外国の方へのアプローチも極めて重要と思っている。

- ・コンテンツをつくれば、多言語で自動翻訳できるものがあり、私どもの美術館では、美術の主な解説のQRコードをその場で読めば、6言語の自動翻訳ができる。やはりAIの進化はあると思う。

- ・そういった点で、コンテンツとそれをうまく見せるための因数分解をICT上でやるという形をとれば、AI活用でいろいろとできる部分も多いのではないかとと思っている。

- ・調査審議事項が文化芸術振興におけるICTの活用による情報発信の強化についてになっており、資料を拝読したが、SNSの利用状況について、あまりの少なさにびっくりした。

- ・例えばX、旧ツイッターのフォロワー数が863、私個人でもフォロワー数は1万以上あると思う。私が幹事を務めていた演劇博物館でも8,300ぐらいあり、これはどうしてかということを考える必要があると思う。

- ・SFMを見ると、新宿の文化はすごいなと思わされる。素晴らしいと思う反面、そのSFMが、正直に申し上げて訴求力がないのだと思う。

- ・演劇博物館もこれに入れていただいているが、特にSFMのために何かしているわけではない。恐らくほとんどのところがそうで、通常やっている活動をここに載せてもらっている形だと思う。

- ・つまり、ある種日常的な文化なのだと思うが、人を集めるものというのは、どこか非日常的な文化なのだと思う。なので、もちろんこうやって幅広い文化がそこかしこにあるということが新宿の非常に大きな魅力だし、力だし、エネルギーだと思うが、やはり何かその核となるようなもの

- ・何が核になるのかを考えたときに、例えば池袋では東京芸術祭がある。他にも、六本木アートナイトもあるし、横浜のレンガ倉庫のあたりもすごくいろいろな催しをやっている。

- ・いきなりああいう大きなフェスティバルをやれということではないが、そういう非日常的で祝祭的な何かを中心に据えないと、SFMというように期間を区切ってやるのであれば、「じゃあ、その期間に新宿に行ってみよう」と思わせるものがなければ、「これ、普通に新宿でやっていることだよ」ということで、訴求力がないのではないかと。

- ・それを考えたときに、新宿の再開発の状況をあまりよく理解していないが、西口が大きく変わることは存じており、私は坂倉準三のあの構造物が好きなので、あれがなくなるのは非常に残念に思う。

- ・一方で西口広場が歩行者のための空間になるということも報道されており、やはり広場をもっと活用できないかとは思っている。

- ・坂倉準三があの構造物を作ったときに、広場の思想があったはず。例えば紀伊國屋が、前川國男設計であの建物を建てる时候にもそういう思想はあったと思うし、採用されなかったが磯崎新の都庁の建築プランも、確か広場の思想だったと思う。

- ・何で広場かということ、いろいろな形でいろいろなところにいろいろな文化があって、そういうものが集合体としてあるのが新宿だと思うので、広場の思想のようなものは、単にビルがいっぱい立ち並ぶだけのまちとは、どこか違う思想になっていかないか。

- ・新宿が再開発されて、高いビルがたくさん建ったとしても、その中心に、例えば西口広場をどう活用

していくかということで、西口広場というのはすばらしい場所

- ・新宿は、日本で一番乗降客が多い駅であるし、そこに建設した西口広場で、このSFMの期間に何か面白いことがたくさん起こるというようなことになれば、もっと外の方も新宿を面白いまちとして認識してくれるのではないかな。

- ・例えば、外国人の方が非常に多くて、多様な文化があるのであれば、例えば食のフェスティバルでもいいし、お子さんが楽しめるフェスティバルでもいいし、やはり昔、新宿はカウンターカルチャーの中心地であった時代もあるので、そういう若い人たちのアートのフェスティバルでもいいし、何かそういう非日常的な、新宿の西口広場が祝祭的になるようなものがあって、それを核として新宿の様々な文化に人の目が向いていくようになればいいのではないかな。

- ・SOMPO美術館のようなハイカルチャーもあるし、紀伊國屋書店や中村屋のような古くからの老舗、文化の拠点だった場所もある。その一方、ジャズとか寄席もあり、いろいろな文化が新宿にあるので、そういうものが新宿という場所に混在しているということを、広場の思想のようなものでまとめられないかというようなことを少し考えた。

- ・なので、発信力だけ強化しても多分駄目だろうと。何を発信するかという、その「何を」の部分がやはり少し弱いのか、見えにくいのか分からないが、もうちょっと非日常的な何かが中心にあるといいのではないかなと思った。

- ・確かに何かイベントをやるとか、ある地区が大事とか、それは当然だが、日常に使っているものが、実は大変な文化の発信力を持っている。

- ・西口広場は、道がぐるぐる回るのを見に外国の方がよく来る。しかも広場、下のほうの車がぐるっと回って上に行く、あの空間の処理は大変に見事だと、建築家の方が来る。

- ・坂倉さんは、そういうことをよくやって、高速道路の入口も、入口のところの施設も坂倉さんがやって。それはやはり新宿の宝

- ・外国の方は、坂倉さんの設計を見に行きたいということがある。そういうモニュメントみたいなものが、実際には「そこで会いましょう」という出会いの場所になったり、會津ハリーの記念像で会いましょうとか、記念像よりもそこで会いましょうと。それがまちづくりなので、「こういう人がいた」とか、「こういう坂倉さんみたいな人が」ということが、文化の大変重要なポイントになる。

- ・確かに文化自体の非日常性とか、そういったところに引かれるのもありつつも、やはりこれだけたくさんの多様な文化があることを宝とするということも、まさにそれこそが新宿区としての文化的な資産であるということ。

- ・それと、子どもたちの文化へのアクセスの問題とかを考えると、多文化へのアクセスも、日常的な強化みたいなことを念頭に置くことが非常に重要かとも考えた。

- ・例えば今の再開発に関して、新宿区の文化的なまちづくりというのか、ワッと花火が上がるようなものよりも、何かもう少し単に用を足すだけではないのだけれども、少し違う時間の過ごし方ができたらかどうか、その気持ちのゆとりみたいなものが日常のレベルの中でちょっとずつあるようなことのほうがしっくりくるような気もした。

- ・西口広場に関しても、本当に日常、普通に人が行き来する中にそういった空間があるということ。そこは非常にユニークなところであり、片やSFMの非常に難しかったところとして、まち全体がミュージアムというコンセプトの伝わりにくさと言うのか。ただ、そこが逆に非常にユニークであることを、

新宿区としては大切にしてい取り組む。それこそが、他にはないところではないかと感じた。

- ・その資産を大切に生かすことが新宿としての非常に大きなブランディングにもつながっていくような気もするので、プロデューサーを立てるというよりは、そういった視点自体が、新宿区としての施策というか、文化の捉え方の独自性につながっていくのではないかなと思った。

- ・もう1点、極めて実際的な話で、SFMにどうやって人に来てもらうかという話で、もちろんSFMをめがけて来ていただくのはうれしいことではあるが、わざわざではない地の利というのか、皆さんが普通に文化月間の2か月間に新宿区へいらっしゃる中で、「こういうことやっているのだったら、ちょっと足を延ばしてみようかな」という、手の届くところにこんなに多様にいろいろある。

- ・音楽が好きな方もいれば、美術が好きな方もいる、落語が好きな方もいる、演劇が好きな方もいる。そういう方たちが手を伸ばせば、いつもそういうものがあるということ、気づけばそうであるということ、を分かっていたきたいということがかなうエリアであると思う。

- ・ICTに因数分解してというところ、来た方にとって迷子になっては困るというところでICTをきっちりやることと併せて、『地球の歩き方』ではないが、SFMの歩き方的な、編集的なものを1つ広報的なところに差し込むだけでも、かなり足を延ばす方は増えるのではないのか。

- ・その提示の仕方は、先ほど来外国人の方の発信力の話もあったように、どうやって情報を得てアクションを起こすのかという研究をもう少しやってみることで、その手法的なことのヒントはいろいろ見つかるかなと思った。

- ・実際、実用的であるのが、意識されない文化の発信になるわけで、西口広場も、高速道路の入口も同じ。それをどうやって生かすか。それは我々が考えて、行政もそれに応じて考えていただくというご意見は大変重要だと思う。

- ・ご参考に。金沢21世紀美術館では、多分中学生以下か、入館無料にして、さらに大人を1人連れてきた場合も無料という施策を長く行った結果、かなりの頻度で美術館に来る。現代美術の美術館なので、そもそも美術好きの方でもいらっしゃらないようなところでこういう施策を行った。

- ・あれはうまい場所につくってというか、邪魔っけになるところを逆に、官庁街と山とをうまくつなげて、結局みんなそこを通るから、自然に芸術に親しむということ。うまくやったアートの例だと思う。

- ・そういった日常化に向けての施策というのは、いろいろな方法が考えられると思うので、そこを生かせるだけの潜在的なポテンシャルというもの。そういうものも考えていく必要があろうかと。

- ・ICTの具体的な取組について、多様性を訴えるのは非常に難しいが、多様性こそ新宿の魅力とお話があった。そこに焦点を当てて新宿の魅力を発信していくことで言うと、SFMの公式サイトは、見やすさよりも魅力をアップしなければいけない。

- ・そうすると、やはり発信されるコンテンツの充実がある。皆さんのいろいろなお話、子どもの問題、多文化の問題やアートの問題などを、予算との関係があるが、きちっと新宿の文化をウェブサイト上で、単なる催事情報ではなく、価値ある情報として伝えるような取組をしないと、多分アクセス数は上がらないと思う。

- ・イベントだけではなく、そういうものの充実が、新宿の文化の多様性、中身を伝えていくという意味で結構重要になっているが、それができていないので、何か取り組んでいければいい。やはり地域別ではなく分野別で、明確なメッセージを出していくことが必要と思った。

- ・サイトの魅力を高めると、参加者の参加度、情報を寄せてくる頻度も高まるし、SNSとの連携、フ

フォローも上がってくると思う。SFMという、新宿区が事業としてやっているところで、実際にできるのはそこかなと感じた。

- ・それとの広場のほう。資料の中のパフォーマンスがと、中身の問題だけではなくて、この空間デザインみたいなのを言及して、事業者は何らかの取組をしてもらいたいなこと。どんな広場になるのか分からないが、何か新宿らしいことができるような提案。作りやすだけでなく、イベントがやりやすいことでもなく、デザインと言ったらいいのか。

- ・パブリックアートを単体で作って、その後野ざらしになるのが今までの失敗だった。そうではなく、開発事業者とか皆さん参加して、こういうイメージの空間にしようというのを議論する場をつくとか、そこにアーティストが参加するとか、時間があるか分からないが、そういう仕組みをつくるのもいいかなと思った。

- ・アーティストに活動の場を与えるという意味での使いやすさがあって、一番は地権者がどう言うか分からないが、いろいろ聞くと、広場を作っても一元的運用がされず、結局何もできないというようなことがあるので、そういう運用体制みたいなことも含めて、研究・提言をしたらと思う。

- ・新宿でいろいろなイベント、パフォーマンスがある。それと同時に、普段使っているもの、特にイベントとかそういうものとは意識しないものが、実は重要な文化、発信源であるということを我々は知る必要がある。

- ・我々はイベントばかり追いかけているけれど、それとは関係なしに新宿というまち江戸時代以来のまち、いっぱい歴史遺産がある。その歴史遺産をどうするか。

- ・新しいものもつくと同時に、過去も大事にしていく。歴史遺産は、新宿の重要なポイントで、それを外国の方が見に来たがるということもある。そういう非常に多様な内容を持った地域だから、新しいものもつくるし、古いものもきちんと保つような形を、我々も、行政のほうでも考えていただきたい。

- ・まずICTの関係で、SFMは、新宿にはアーティストも非常に多く、いろいろな活動が様々にあって、この資源を実際に区民の方々が享受する。これがすごく大事なことでないかということで、そういう参加者が集まれるプラットフォームを作ることから始まったと理解している。

- ・区民は、新宿区の場合は住んでいる方、通勤する方、通学する方、そして来街者まで含んでの区民で、やはりそこに住んでいる方々を中心に、広がりのある区民の方々が、ウェルビーイングというのか、「近き者説べば、遠き者来る」というのか。「区民でいてよかったな」という感覚が持てるような1つの文化的な試みであると理解している。

- ・そこで発信力ということになって、審議事項の1がICTになっている。最終的には条件整備に落ち着いているが、そこに至る過程がいろいろあり、ICTは非常に動きが早いということと、今まではプライマリーなインフォメーションというか、新宿区が出す、あるいは参加者が出すということに焦点が当たっていたが、今日もう拡散の時代なので、誰がどういう形で拡散してくれるのか、どんなハッシュタグでどのようにプッシュされるのかとかは、コントロールできないということがあるので、条件整備をきちんとして、まずは、そういうことがしやすいようなところを固めるという提言でどうかという資料になっている。

- ・本来、SFM参加者に、もっと積極的にいろいろな情報発信をしていただきたいが、現場を拝見すると、舞台を作ったり、活動することに非常に時間と手間がかかり、発信するというコストがかけられない。コストというのは、時間とお金、それからスキルもあるかと思う。クオリティの高い、視聴に値

するようなコンテンツをつくるのが難しい団体もたくさんある。そういうことも考えて、取りあえず今回は、できるだけサポートができるような条件整備をやるということに落ち着いている。

・インフルエンサーの話も随分出て、いろいろな企業に聞くと、100万人のフォロワーを持っている方をお願いするのがいいのか、5万人のいろいろなマイクロインフルエンサーの方20人をお願いするのがいいのかというと、最近ではもう後者。あるセグメントの100万人よりは、いろいろなセグメントの20人のほうが、より多様性があるというのではないかとこのところに着いていることもあって、また職業的なインフルエンサーはいろいろな問題もあり、そのところは参加者の協力を得ながら、できるだけ新宿区としてもサポートして、また新宿観光協会や先行しているセクションとも連携しながらやっていくということに落ち着いている。

・なかなか行政とか、こちら側が提言しても事態が動かないというか、そういう提言に共感して下さって、動いてくださる方がいないといけないということもあって、少し緩めの提言になっている。

・あと、この広場というか公共空間については、いろいろなご議論があった。具体的などころも盛り込んだらどうかというご議論もあったが、都市計画は、私の知る限りだと非常にシステムチックに動いていく世界で、まず東京都が都市計画法に基づくマスタープランというのを持ち、それぞれ東京都の中の新宿区はこういうふうに、こういう方向性で、どういうようになって、それを受けて新宿区で都市マスもつくり、その後ビジョンもつくって、さらに方向性を決めて具体的にだんだんどうしていくという、大きな枠組みの中に盛り込んでもらわなければならないことがある。

・なので、事務局にできるだけフリーハンドで渡したほうがいいのではないかとこのことで、ゆるい形になっているのは、都市計画セクションと相談するときに、あまりがっちり固めたものだと相手が飲み込めない可能性が非常に高いという判断もあり、ちょっと政治的な判断というか、そういうところもあって、文化的な要素を入れ込んでもらうところを強調して出すことをまず優先してこの形になっている。いろいろなご意見もいただいたので、メリハリをつけていければいいと思う。

・あと、内閣府が50年ぐらい毎年やる国民意識調査がある。「心の豊かさを求めますか、まだまだ物の豊かさを重視しますか」という単純な質問を、毎年同じことをやっている。

・直近30年ぐらいは、心の豊かさを求める人が6割以上と多かった。それがコロナで急激に変わり、令和5年11月の時点で、まだまだ物の豊かさを求めたいという人が、もう物の豊かさはある程度充足したので心の豊かさを今後求めていきたいという人を上回る数字になった。

・心配しているのは、特に10代、20代、30代の若い人たちに「まだまだ物だ」という人たちが6割以上いること。年代が上がると「やはり心の豊かさ大事」と分かってくるが、直近の若い人たちは、経済的な条件もあるのだろうと思うが、結構厳しい条件に置かれているということがある。

・一方、物価がすごく上がっているので、コストは価格に転嫁しなければいけないということもあって、芸術文化に携わる方々はすごいジレンマを抱えていると思う。昨年フランスに行ったが、ルーブル美術館もチケットを値上げした。外国人の方は、1人5,000円以上でも多分チケットを買うから、これからもどんどん値上げするそうだ。

・しかし、実際は26歳以下、高齢者、それと失業者は自己啓発も兼ねて無料。入場料を払わなくていい人たちが4割いる。

・お金が払えて、そのくらいの金額を出してもいいという方からは費用を適切な価格で回収して、そうでない方々については、きちんとそういうアクセスを確保するというメリハリをつけることも、すごく

重要なのかと思った。

・日本では、特にミュージアムは博物館法があるから、実費分だけでということになっていたかと思うが、ここまで来て経済格差もあるし、人々の意識もここまで変わった状況の中で、やはり心の豊かさが必要で、払える方からは適切な費用を回収していかないと、ちょっと無理かなとつくづく感じている。

・実際、子どもの貧困も非常に静かに進んでいると聞いている。シングルペアレントの方々は非常に厳しい状況に置かれ、経済格差が体験格差、そしていわゆる非認知的スキルが十分に育たないまま社会に出なければいけなくなることもあると聞いているので、子ども劇場の試みもすばらしいと思った。

・これは大変大事。つまり、もう文化施設や文化の問題を超えて、人間形成の問題。当然、文化にも関わってくるということ。それがものの形にも当然出てくる。

・磯崎さんの東京都庁舎も、自由に作れると思ったら、土地が3筆で、L字型になっている。東京都のものだから1筆にしたらいいいものになると思ったのに、3筆のままで、磯崎さんも含めていろいろ提案をもらった。そして、丹下さんのあのノートルダム方式みたいになってしまう。そうでない形ができたはずだが、そのようなことも。これは我々が提言することではないが、こういうことが話題になったことは、行政の方に知っておいていただく必要があろうかと思う。

・イベント、あるいは音楽会とか展覧会ということが大事だが、それだけではなく、日常生活と非常に関わりがある。それをどうやって生かしていくかということ、意見いただいた。それは大変重要で、これは行政のほうでも、いろいろ考えていただきたいと思う。

・星山先生は今日お休みだが、いらっしゃったら、新しいものもつくるけれど古いものも大事にしてほしいということを当然おっしゃっていただろうと思う。過去の都市計画の遺産がいろいろ残り、それもきちんとした重要な遺産だろうと私も思う。

・そういうところも大事にし、それをまた見やすいようにすることも必要だから、ご老人の方が坂道をゆっくりうまく行けるかどうか、そういう都市計画的なことも行政で考えていっていただくということが、我々の提言として、個人的に欲しいと考える。

3 事務連絡等

次回会議は7月頃の開催予定とし、日程や会場等については別途事務局から連絡することとした。

4 閉会

会長の挨拶をもって、午後3時30分に閉会した。

*SFM：新宿フィールドミュージアム